

## 進捗状況の概要 【1ページ以内】

本事業は、日露間で事業展開するモノづくりを中心とした企業において製品開発プロジェクトを推進でき得る人材の育成を目的として、本学と学術交流協定を結ぶ10大学との間で展開する教育の産学連携プログラムである。当該教育プログラムは①短期人材交流プログラム（2週間／双方向）、②交換留学プログラム（1セメスタ／双方向）、③学位プログラム（修士：2年、博士：3年／東大阪モノづくり専攻への受入のみ）の3層で構成され、これら全てにおいて企業での研修を実施する。

本学は2016年にモスクワ国立大学をはじめとするロシア国内の4大学と交流協定を締結したのを契機に2017年に7大学、2018年には2大学とそれぞれ交流協定を締結し、ロシア13大学との間で交流事業を着実に進めている。本事業では、そのうちの10大学を連携大学と位置づけ、2018年度末までに短期人材交流プログラム（2017年度スタート）および交換留学プログラム（2018年度スタート）に取り組んだ。

短期人材交流派遣プログラムでは2017年度に14名、2018年度に25名をロシア各地の協定校に派遣した。この派遣プログラムでは協定校での研究所訪問や学生交流等の大学研修、モスクワと経済特区トリヤッチでの日系企業視察、製造業企業ワークショップ等の企業研修を実施し、派遣学生はロシアにおけるモノづくりを実地体験し見聞を深めた。さらに、2018年度にはウラジオストク航海研修を東海大学、北海道大学、新潟大学と共催し、往復の船内での日露の他大学学生と協働する船上講座や学生会議等の研修、極東連邦大学（ウラジオストク）での研修を行った。

短期人材交流受入プログラムでは2017年度に10名、2018年度に24名をロシア各地の大学から受け入れた。受入プログラムでは、理工学部教員による講義や研究室訪問、学内モノづくり関連施設や東大阪市内のモノづくり企業見学、インターナショナルセンター教員による日本語・日本文化講義や学生交流等を行った。さらに日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成プログラムの一環として、日露青年交流センター、ロシア青年人材センターと協働で「日露青年フォーラム2018」を2018年10月に本学で開催し、総勢95名（本学学生18名を含む日本人47名、ロシア人48名）を招聘し、「モノづくり」に焦点を当てつつ、中小企業交流・協力の抜本的拡大、ワークライフバランスの実現課題、人的交流拡大、ボランティア分野での日露青年協力等について日露の青年が活発な議論を行った。

交換留学プログラムは2018年度からスタートし、ロシア協定校から8名を受け入れ、本学からは4名をモスクワ、サンクトペテルブルグ、ドゥブナの各大学に派遣した。受入学生は、各自の専門分野によらず理工学部5学科に関するテーマ全てを順次実施するPBL型実験実習とモノづくり企業への約1ヶ月のインターンシップで構成する「エンジニアリングデザイン実習」、各自の専門分野に応じて研究室に所属し課題研究に取り組む「卒業研究ゼミナール」、初等日本語や日本文化に関する科目を履修・受講した。派遣学生は、派遣大学において英語で開講される理工系専門分野やロシア語コミュニケーションに関する座学系科目、モノづくりに関連するPBL型実験実習を履修・受講した。また、「プロジェクトマネジメント実習」では本学経営学部教員による派遣前学習と、派遣中に派遣先大学や本学教員による指導、ロシアに進出する日系企業・団体における研修を行っている。

なお、本学では「近畿大学日露人材育成プロジェクト」を発足させ、全学的に日露人材育成・学術交流を強力に推進している。

## 【本事業における中間評価までの交流学生数の計画と実績】

2017年度				2018年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績	計画※	実績
5人	14人	5人	10人	15人	25人	16人	32人

※海外相手大学を追加している場合は、追加による交流学生数の増加分を含んでいる。

## 特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ以内】

「大学の世界展開力強化事業（ロシア）」を国内外にアピール

2018年3月に「キックオフシンポジウム」を2日間にわたり実施した。本事業の交流実施7大学の代表団および「モノづくりの概念」を共有できるロシアの2大学から代表者が参加し、今後の大学間交流の枠組みや本事業への取組について議論した。このキックオフシンポジウムには国内外から約600名の参加があった。とくに日本側からは世耕弘成経済産業大臣兼ロシア経済分野協力担当大臣、ロシア側からゴロジエツ・オリガ副首相（ロシア教育問題担当）、オレシキン・マクシム経済発展大臣が参加し、講演ならびにパネルディスカッションを行った。両国の閣僚がキックオフシンポジウムに参加したことで本学のプログラムのみならず、「大学の世界展開力強化事業（ロシア）」のプレゼンスを国内外にアピールした。

「日露大学間交流セミナー・日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成」をロシアで開催

2018年5月に開催されたサンクトペテルブルグ経済フォーラムでは「日露大学間交流セミナー・日露間で活躍できるモノづくり中核人材の育成」を日本ブースで開催し、世耕弘成経済産業大臣兼ロシア経済分野協力担当大臣、サドヴニチィ・ヴィクトルモスクワ国立大学総長、細井美彦本学学長が教育分野におけるモノづくり人材の育成について講演を行った。また、本フォーラムにおいて、実業ロシア（レピク・アレクセイ会長）との間で協力協定に調印したほか、サドヴニチィモスクワ国立大学総長に近畿大学名誉学位記を授与した。

日露青年フォーラム2018を開催：日露の青年95名が本校に集う

本学は日露の青年交流を促進する立場から社会貢献の一環として、日露青年交流センター、ロシア青年人材センターと協働で「日露青年フォーラム2018」を2018年10月に近畿大学東大阪キャンパスで開催した。総勢95名（本学学生18名を含む日本人47名、ロシア人48名）が参加し、「未来に続く日本とロシアの協力」を全体テーマに、中小企業交流・協力の抜本的拡大等4つのサブテーマについて日露の青年が議論を行った。本事業は「日本におけるロシア年」公式イベントとして認定を受けた。

「モノづくり中核人材」を育成するために新設科目を立ち上げ

2018年度から「交換留学プログラム（双方向）」がスタートするのに合わせて、本プログラムを実施するための科目「エンジニアリングデザイン実習」「プロジェクトマネジメント実習」「ロシア語1」「ロシア語2」が理工工学部に開設・開講された。また、同年度からは本学語学教育センターにロシア語クラスを新設、大学の世界展開力強化事業（ロシア）の一環としては石川一洋客員教授による連続講義「現代ロシアを読む」をそれぞれ開講し、学生たちがロシアにアクセスできる環境を整えている。

「近畿大学日露人材育成プロジェクト」

本学における日本とロシアとの交流をサポートする組織として「近畿大学日露人材育成プロジェクト」を発足させ、全学的に日露人材育成・学術交流を強力に推進する体制を構築している。その一環として、2017年4月には豊田通商株式会社、豊田通商ロシアと「近畿大学日露人材育成プロジェクト」の推進に関する覚書を締結し、豊田通商ロシアのモスクワ、サンクトペテルブルグ事業所内にそれぞれ、「近畿大学モスクワ事務所」および「近畿大学サンクトペテルブルグ事務所」を開設した。両事務所は、ロシア企業の人材育成ニーズ調査、ロシア国内でのインターンシップ実施、学生の安全確保・危機管理のための情報収集等を一括して行う拠点として機能している。

東大阪を中心とする「モノづくり」企業と日露学生の交流

ロシアからの短期受入プログラムでは、東大阪市内のモノづくり現場の視察を実施し、交換留学受入プログラムでは関西圏のモノづくり企業でインターンシップを実施した。これらの場を通じて、ロシアからの受入学生には本学の実施するプログラムや「モノづくり」の本質を理解してもらおうと同時に、本学学生に対してはロシアへの関心を高める契機とした。さらに東大阪をはじめとするモノづくり企業に対する本プログラムの理解にも繋がった。